

【図書紹介】

内田伸子著『子育てに「もう遅い」はありません』の紹介

高木 真理子*

I. 本との出会い

この本は、知人がもうすぐ出産というとき、何かお祝いになるものをあげようと思って、発達心理学の専門の者として、お母さんになる人を励ましたくてプレゼントにしたことがあります。

II. 内容紹介

☆赤ちゃん

赤ちゃんは泣くことがことばの代わりです。理由もないのになかなか泣きやまないときもありますが、「よしよし、いい子ね」とやさしく身体をなでながら言葉をかけましょう。親がいらして声を荒げたりすると親のいらだちを感じてますます泣いてしまいます。叱っても逆効果です。なかなか泣きやまないことを昔からかんのむしとって、ときどきあることです。

赤ちゃんと見つめあったり、顔の表情を真似したりするのもコミュニケーションです。ごきげんなときにたくさん話しかけましょう。赤ちゃんがダーと言いながらおもちゃに手を伸ばしたら「くまさんがほしいの？」と声をかけて渡してあげてください。スープをあげるとき「あつからフーフーしよう」と声をかけたりします。ことばが返ってこなくても、わかっているような、おしゃべり準備の段階があつてしばらくしてから言葉になっていきます。

☆遊び

お気に入りの遊びで「集中力」がつかます。おとなは「待つ。見守る。急がない。急がせない。」で子どもの興味を大切に見守ることで。

ままごとなど、ごっこ遊びは、創造力やコミュニケーション能力を育てます。最近子どもが少なくなっているのごっこ遊びのお友達を見つけにくいこともありますが、大人と一緒に

遊んであげて子どもが成長するプロセスをフォローするのもよいかもしれません。砂場でトンネルをつくったり山をつくったり、どろんこ遊びも大切な体験です。

また、子どもどうしの遊びは仲間意識を経験することになり、人付き合いの経験にもなります。

☆幼児期の教育

早期教育は必要ありません。早くから英語を始めるより、日本語の基礎がためをすることが大切です。

暗記学習や訓練はあまり意味がないことです。「こうしなさい」とうるさく言われて育つと指示されないと行動しない子になってしまいます。早期教育で小さいときに機械的に詰め込むような暗記学習をすると、内容への興味が薄れてしまうこと、自分で問題解決しようとしなくなることがあります。

幼児期には、文字を覚えるより驚いたり感動したりする心を育てましょう。自分らしい感じ方や、誰かに伝えたいようなイメージを感じる力、おもしろそう、どうしてだろうと知りたくなる気持ちを大切にあげましょう。

テレビは番組を選んで見せましょう。つけっぱなしで長時間になると、直接のことばのやり取りが少なくなってしまう、人との付き合い方の基礎が学べなかったり、ことばの発達が遅れたりすることがあります。

絵本で「心の栄養」を補充しましょう。赤ちゃん向けの絵本もあります。絵を見て遊ぶ感覚を大切にしましょう。少し大きくなったら言葉の響きを大切にしながら、読み聞かせをしてあげましょう。お母さんの声、近くにいるぬくもり、きれいな絵など、こちよ刺激は、くりかえし読み聞かせると心の栄養になります。

*越谷保育専門学校・川村学園女子大学非常勤講師

☆脳の育ち

男の子と女の子では脳の発達のみが違いますが、言葉をつかさどる左脳の発達には女の子の方が早いので、女の子の方がしっかりしているように見えることがあります。男の子がモジモジしてなかなか言葉が見つからない様子だったり口ごもったりすることがありますが、「できたね。」と認めてあげて自信を持たせてあげましょう。

「どうしたの？」と聞いて、何が起こってどうなったと説明できるのは5歳くらいになってからです。うまく説明できなくても一生懸命考えているのでモジモジしますが、少し待つつもりでつきあいましょう。

☆「困った」ことは成長のあかし

いたずらは知りたい気持ちの表れです。危ないものや触られて困るものは手の届かないところに片づけ、「さわるとあっちち」「落ちると痛い痛い」など繰り返して聞かせます。でも多少のいたずらは大目に見て、叱ってばかりにならないようにしましょう。

イヤイヤは自己主張のはじまりです。イヤというのはお母さんと違う自分をアピールしているのです。「ぼく」が、といっても自分でできなくてイライラしたり失敗して泣いたりしますが、「ほらできない」というと傷ついてしまいます。できないときは「ああ残念」と受けとめたり、「またやってみようね。」と励ましたりしましょう。

だだこねは我慢を覚えるチャンスです。なんでも思い通りになるのではなく、我慢するのも成長に必要な体験です。今日は〇〇だけ買うと言ってそこに注意を向ける、買わないと決めて約束を守る、などするとよいでしょう。「ちょっと待っててね。」といってお待てるのが我慢につながります。たとえば、来客があったとき、「おやつはお客様が先よ」など機会をとらえて「ちょっと順番を待ってね」とやってみましょう。

けんかは人付き合いの第一歩です。何か起こ

っても、むやみに叱るより、「一緒に遊びたいのね。」とか「おもちゃを返してって頼んでみようか」とかフォローしましょう。

☆共有型のしつけ：子どもと一緒に楽しもう

共有型しつけは子どもとのふれあいを大切に、楽しい体験を共有する中でしつけをすることを共有型しつけといいます。子どもが興味を持っていることを「面白いね」と共感することで、子どもの自発性を伸ばし、小さな成功体験を積み重ねる経験から自信や挑戦力もつきます。子どもと関わる時は、押しつけにならないよう、サポートするつもりで、自分で考え判断するゆとりを持って温かく見守りましょう。

Ⅲ. この本の良いところ

発達心理学は、専門的には、子どもの反応を観察して、いつくらいからどんな要因によって発達的变化が起こるか、科学的にみる態度が必要とされます。そんなことも新しい内容を盛り込んでやさしく解説されています。

Ⅳ. 著者の内田伸子先生の紹介

内田先生は、子どものことばの発達、認知の発達の研究をされています。子どもと個別面接をして、お話の初めの部分を話して、そこから想像をして物語をつくってみる思考過程の観察研究をされたこともあります。また、救出された被虐待児の成長を見守る研究をされていたこともあります。

(富山房インターナショナル、2014年、定価1,296円)